

二十四節気 **小寒**
(1月5日)

七十二候 **水泉動** (しみずあたたかかをふくむ)
(1月10日)

雉始雊 (きじはじめてなく)
(1月15日) 報告者 上田真佐江

1 季節の移ろい 小寒 小寒は「寒の入り」、木々の冬芽は春の展開を待っています。12月の冬至以来日照時間は長くなり続け、寒い中にも春の気配を感じる季節になりました。

春を待つ...冬芽など ❄️



ミズキ 水木 ミズキ科



クリ 栗
ブナ科



クヌギ 櫟
ブナ科
冬芽の芽鱗の縁に短毛が密生。



コナラ 小檜
ブナ科
日当たりが良い場所で、葉が展開し始めました。



ウワミズザクラ
上溝桜 バラ科



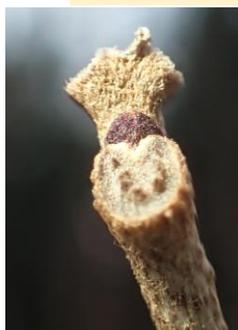
ウグイスカグラ 鶯神楽
スイカズラ科
鶯が神楽を舞っている？



メギ 目木
メギ科 茎や根は洗眼薬に



イヌシデ
犬四手
カバノキ科



クサギ 臭木
シソ科



コマユミ 小真弓
ニシキギ科
残った果実と冬芽



ガマズミ
莢蒨
レンブクソウ科



ホノノキ 朴の木
モクレン科



キリ 桐 キリ科
左：丸いのが花芽
右：果実の中に翼が付いた5mm弱の種子がたくさんできます。まだ残ってるかな...



センダン 梅檀 センダン科 果実は有毒だが薬効も。様々な鳥に食べられ種子が散布されます。





イヌザンショウ
犬山椒 ミカン科
棘は互生



サンショウ 山椒
ミカン科 棘は対生
香辛料など食用だけでなく、
すりこ木にも利用されます。



シロダモ 白だも
クスノキ科
イチローも使ったタモのバット
は、アオダモ。常緑高木



スギ 杉 ヒノキ科
花粉を含む雄花がたくさん...



ヤブツバキ 藪椿
ツバキ科
蕾が膨らんできました。



新鮮な糞（ニホンノウサギと思われる）



銘板の裏で冬越しする生き物たち



左の写真は、
上から
ミノムシ、
蛾、
背中にハート
マークをつけて
いるのは、
エサキモンキ
ツノカメムシ



2 草刈り 温暖湿潤な日本では、放っておくと草地は森林に遷移して行きますが、人が手を加えることで多くの草原が維持、利用されてきました。かつて里山には、茅葺屋根の材料（チガヤやススキなど）を供給する場として草原（茅場）がありました。当地では、約10年前に草地を再現したところ、ノジトラノオ（レッドリスト環境省カテゴリー絶滅危惧Ⅱ類）など草索性植物の埋土種子が芽を出しました。冬は草刈りのシーズン。草地の生物多様性維持のため、NPOで草刈りを行います。



①アマナが生えるエリアの刈り込み



②ノジトラノオが生える草地の刈り込み

3 コバギボウシ保護作業 弁天水路の落ち葉さらいを前に、周辺のコバギボウシを囲いました。コバギボウシの開花株数は、湿性環境の光環境維持の指標となります。

※ 秋から、こんぶくろ池水位維持対策設備への注水量を、以前よりも絞っています

こんぶくろ池では、現在も宙水が湧出していることは昨年度の水質調査でも示唆しました。ただ、周辺の涵養域の開発に伴う水量低下の問題があります。この対応策としてとられたのが、地金堀上流域から汲み上げた水を曝気槽へ注水し、更に地下浸透を経て池に入れるしくみ。

2021年秋の設備点検で、設備に対して注水量が多すぎた事が判明。地金堀上流域（排水路）から汲み上げる水の量を絞っています。

問題となっている、降水量が少ない冬のアオコ発生（2018年1~'19年3月、2020年12~'21年2月）、池への土砂の流入が改善される事を願います。

街の洪水対策もふまえ、雨水浸透を意識した周辺部の開発にも期待！



コバギボウシ
キジカクシ科



こんぶくろ池



弁天水路

参加人数	6名
------	----